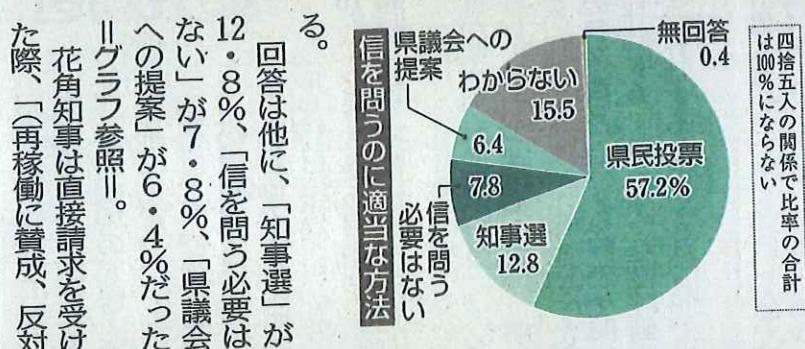


柏崎刈羽原発再稼働の是非を巡り、花角英世知事は自らの結論を示した上で、県民に「信を問う」としているが、その具体的な方法はいまだに明らかにしていない。独自調査で、信を問うのに適当な方法を尋ねた質問では、「県民投票」との回答が57・2%を占めた。

知事の「信を問う」方法

「県民投票」最多57.2%



原発再稼働の是非を巡る県民投票は、市民団体が県民投票条例の制定を求めて直接請求をしたが、今年4月の県議会臨時会で否決されている。それにもかかわらず、今回の調査でも「県民投票」との回答が半数を超えるが、県民が依然として、自ら意思を示す機会を求めていることがうかがえ

る。回答は他に、「知事選」が12・8%、「信を問う必要はない」が7・8%、「県議会への提案」が6・4%だった〔グラフ参照〕。花角知事は直接請求を受けた際、「(再稼働に賛成、反対の人は36・7%だった。

昨年10月の前回調査で同じ質問をしたところ、「県民投票」との回答が57・3%とトップだった。今回も「県民投票」は全ての年代で5割を超えた。原発再稼働への賛否と重ねてみると、「反対」と答えた人は79・1%、「どちらかといえば反対」は67・9%、「どちらかといえば賛成」とした人も半数を超える52・9%が「県民投票」を支持した。「賛成の人で「県民投票」を選んだのは36・7%だった。

四捨五入の関係で比率の合計は100%にならない

(二)二者択一では県民の多様な意見を把握できない」との意見を付し、県民投票の実施に否定的な見解を表明している。